

東宝日比谷ビル(日比谷シャンテ)

TOHO HIBIYA BUILDING

所在地: 東京都千代田区有楽町1-2-2

建築主: 東宝株式会社

設計者: 東宝株式会社

株式会社阿部事務所

株式会社竹中工務店

施工者: 株式会社竹中工務店

竣工: 1987年9月30日

Location: Tokyo

Owner: Toho Co., Ltd.

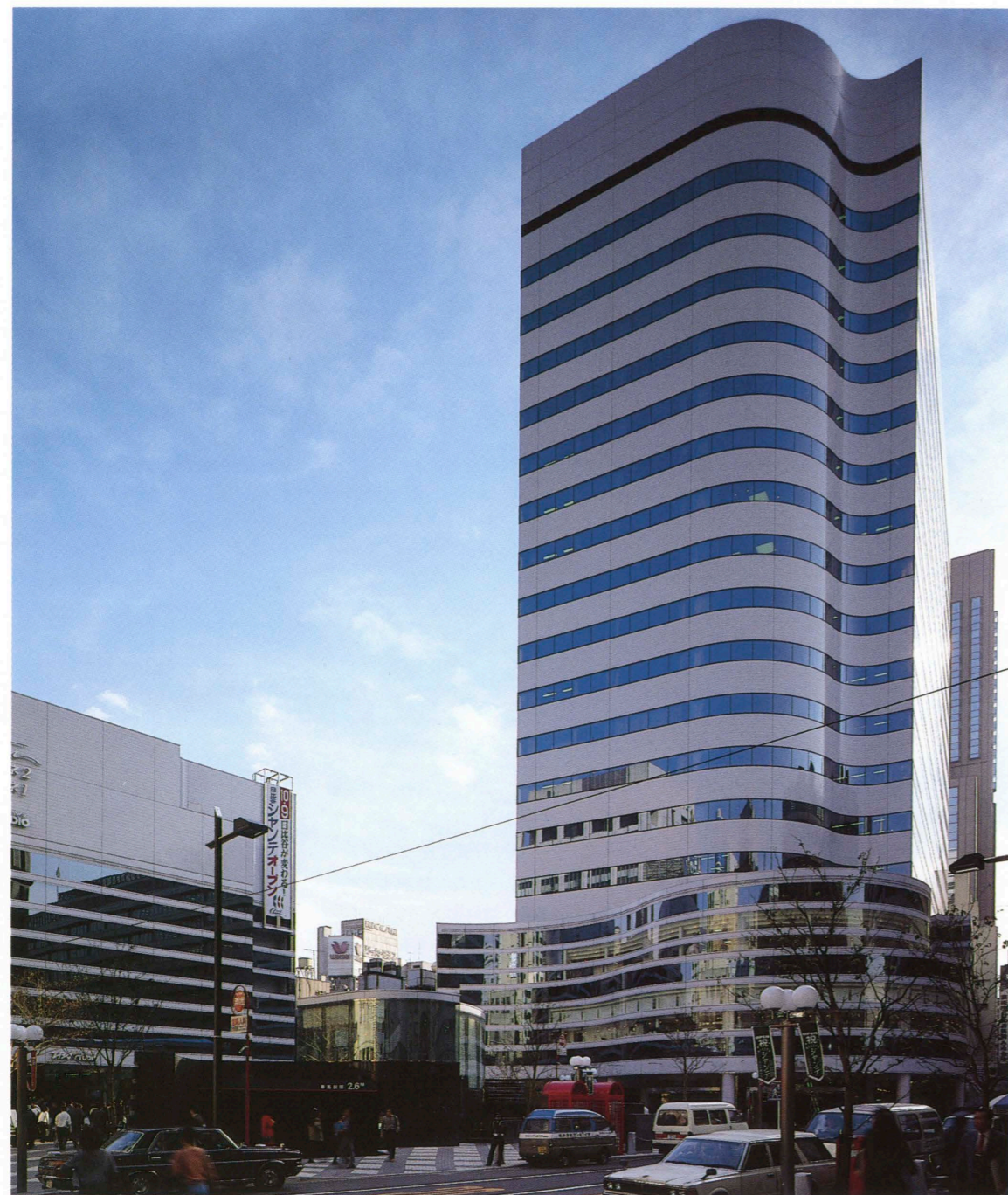
Architects: Toho Co., Ltd.

Abe Architects & Engineers

Takenaka Corporation

Contractors: Takenaka Corporation

Completion date: September, 1987



▲北側全景 North side.



▲西側モール West side mall.



▲プラザ Plaza.



▲店舗部分吹抜け Well.

■建築概要

敷地面積 5,522㎡
 建築面積 4,057㎡
 延床面積 59,558㎡
 構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
 規模 地下4階、地上18階、塔屋2階
 工期 1984年11月～1987年9月(解体を含む)

■仕上げ概要

外部仕上げ 屋根:[高層]コンクリート直仕上げ、アスファルト防水TA-1押え、普通コンクリートφ60mm直押え、目地切り@3,000 [低層]同上、表面仕上げ、磁器質タイル貼りおよび植込み 外壁:[高層]磁器45三丁タイル打込み、

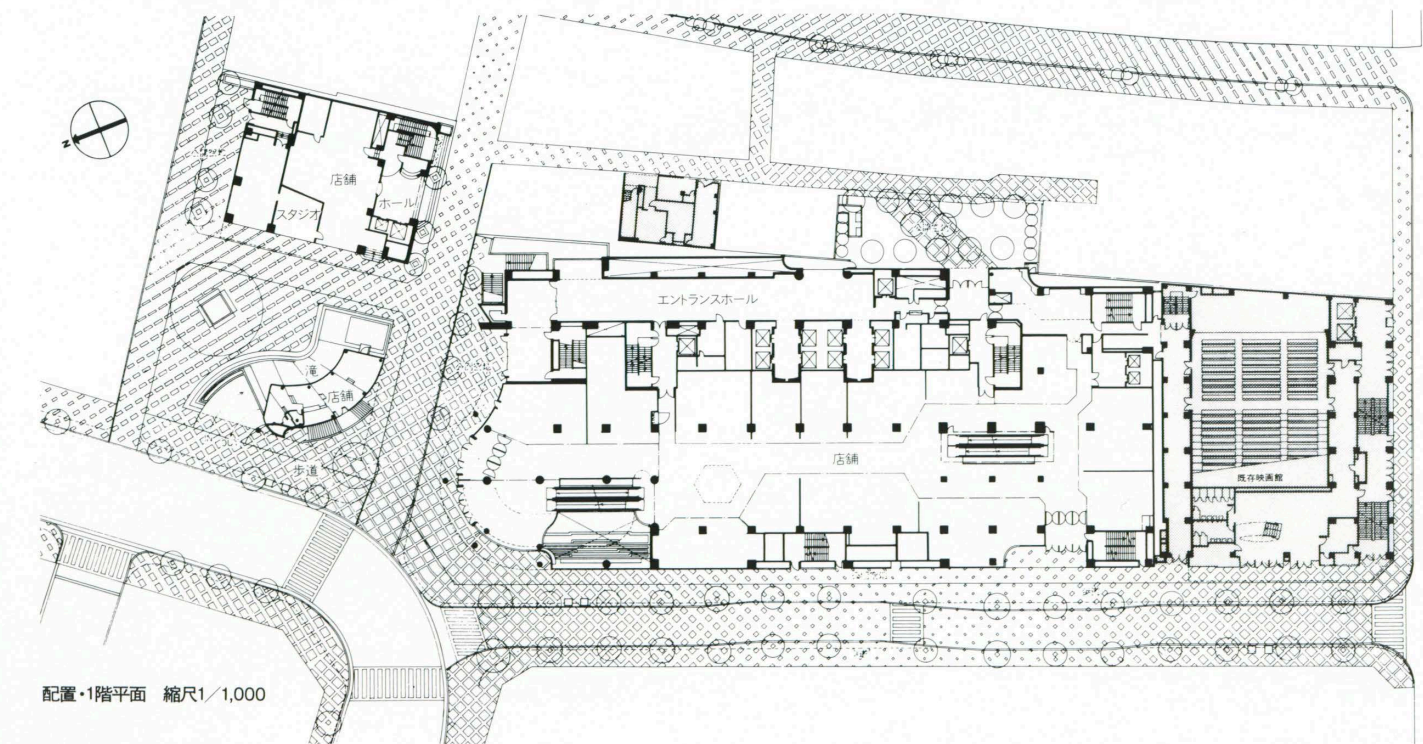
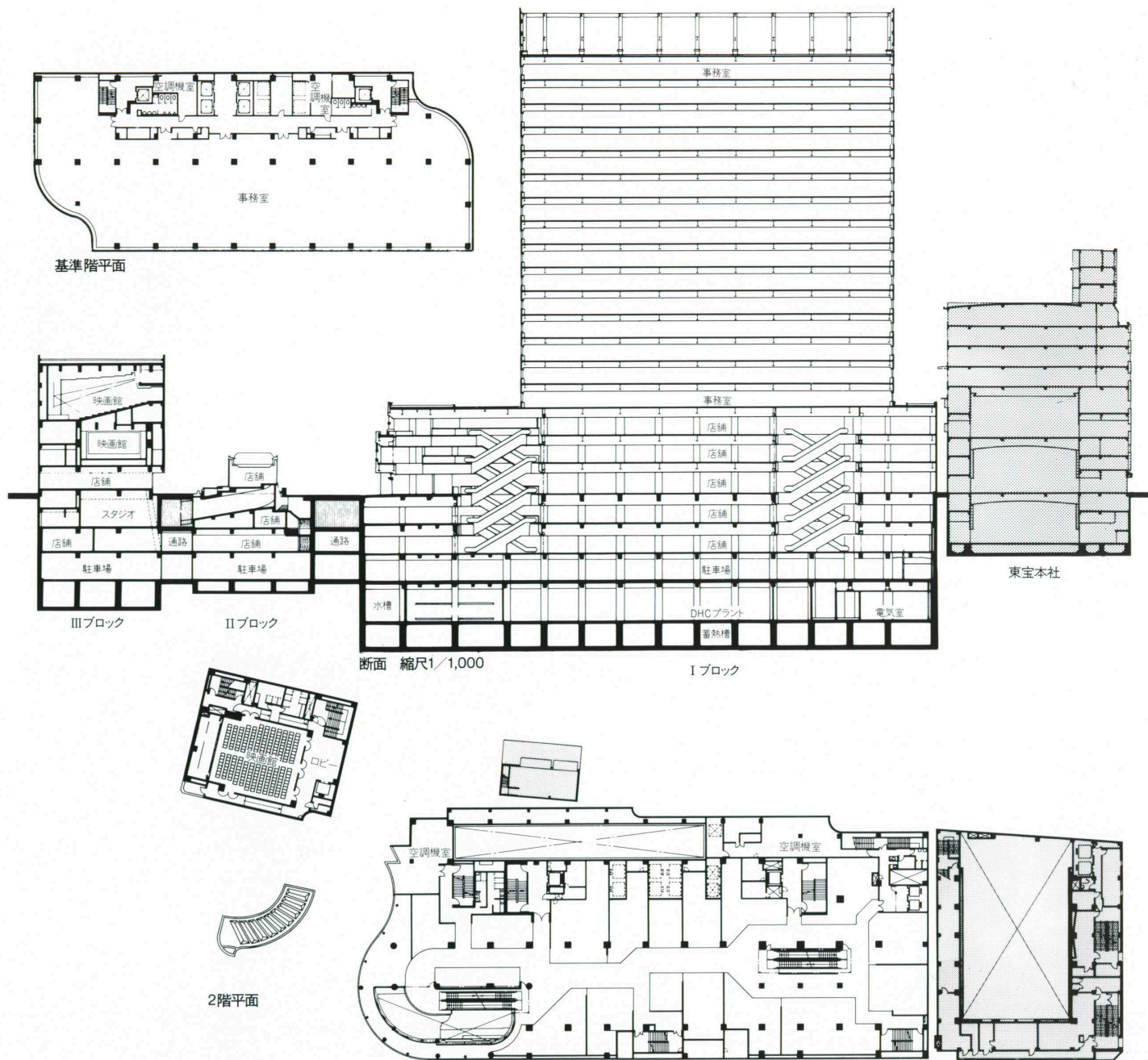
PC版+アルミサッシュ、電解二次着色、熱線反射ガラス嵌殺し横連窓 [低層]アルミカーテンウォール、アクリル系焼付塗装、熱線反射ガラス、ボーダーPC版フッ素樹脂塗装 外構:[アスファルトレベリング層]、特注インターロッキングブロック100×200×80[建物際ボーダー]外国産花崗岩本磨き
 内部仕上げ [オフィスエントランス]床:コンクリート下地外国産大理石本磨き 壁:鉄骨下地外国産大理石本磨き 天井:PBφ9+12mmラッカー吹付け [基準階事務室]床:コンクリート直仕上げタイルカーペットφ7mm 壁:PBφ9+12mmEP-II 天井:LGS下地岩綿吸音板φ15mm [1階店舗共用通路]床:コンクリート下

地外国産大理石本磨き 壁:コンクリート下地結晶化ガラス、一部焼付けガラス 天井:PBφ12mmEP-II

■設備概要

空調 熱源:地域冷暖房プラントより冷水・温水を受入れ 方式:省エネ型全自動空調器(単ダクト方式)+ファンコイルユニット
 衛生 給水:重力式(飲用雑用2系統 上水受水槽147㎡、中水受水槽150㎡) 給湯:電気熱源による局所式(ただし店舗・社員食堂厨房はガス局所式) 排水:分流式、雑用および厨房排水は中水原水として利用
 消火 屋内消火栓、連結送水管、スプリンクラー、泡、ハロゲン化物消火、消防用水





選評

近江 栄・櫻井 清・鮎川一哉

大正、昭和戦前期の世代にとって、日比谷地区は青春時代のロマンに彩られた忘れがたい境界である。しかし、近年の快適な街づくり理論に照らしてみれば、車分離による歩行者空間の設定が期待されていた地区でもあった。近年、地元商店街の共存共栄を図りながら再開発事業完成まで7年の歳月を費やし、その成果として日比谷地区の環境の向上と付加価値を著しく向上させることに成功している。

その開発手法としては、地元を含めた街区全体に「地区計画制度」を、さらに三つの敷地に「一団地申請と総合設計制度」を適用しこの地区の街づくりに有効に機能させている。

たとえば公道のモール化と三つの敷地の地下2、3階で人と車の相互連絡を計り、また容積移動の効用としてポケットパークを生み出し、駐車場出入口の集約化を果たしている。三つの敷地の地域暖房プラントを設置するなど、設備・施設管理の集中一元化も実現している。

低層部には高級専門店、映画館、TVスタジオを高層部にはインテリジェントオフィスを含む複合ファッションビルを見事にまとめている。

随所に曲線を巧みに導入したデザインは楽しい雰囲気醸成するのに有効であり、隅々まで神経の行き届いた高品質の建築群によって、活気ある街区を演出し成功を収めた。

再開発事業の成果としてのみならず、建築作品としてもこの地区らしい品位と魅力を備えているのは、実力ある設計・施工のスタッフの努力と共に、多種多様な施主たちの協調と信頼が大きな支えとなったようだ。

かつてのロマンチックエリアが、一段とおしゃれな街区として生まれ変わっている。

REVIEW

Sakae Omi, Kiyoshi Sakurai, Kazuya Ayukawa

Associated with youth and romance in the earlier part of this century, today the Hibiya district is an example of a pleasant urban district in which separate spaces are established for vehicular and pedestrian movement. As a result of a seven-year redevelopment program conducted for mutual cooperation and prosperity by local commercial enterprises, the Hibiya environment has greatly improved.

The effective redevelopment method entailed a "Regional Planning System" for the entire region, including local organizations, and a "Single-group Petition and General Design System" for three sites. A mall and the second and third basement levels of the three sites provide mutual connection for pedestrians and vehicles. Miniature parks are used to accommodate capacity shifts, and parking-lot entrances and exits are concentrated. Such steps as provision of a regional heating plant for all three sites promote equipment and facilities concentration.

The low rise-blocks house fine shops, motion-picture theaters, and television studios. The high-rise tower is a splendid combination fashion building and intelligent office complex. The numerous curved surfaces of the design add an enjoyable note to an elegant group of extremely carefully designed buildings that enliven their district.

The skills of the designers and contractors plus the trust and cooperation of a large number of diverse clients made this project a great success both as redevelopment and as an architectural work of dignity and appeal that add a note of modern chic to a district long famous for romantic associations.

